



【元茨木川緑地整備の概要】

- 明治 34 年 準用河川に認定（茨木川）
- 昭和 11 年 河川区域の認定
- 昭和 24 年 河川敷の公用廃止
- 昭和 25 年 河川名称変更（元茨木川）と府費支弁河川に編入
- 昭和 36 年 府費支弁河川の廃止
- 昭和 45 年 元茨木川緑地として都市計画決定
- 昭和 49 年 整備開始
- 昭和 50 年 元茨木川緑地の開設

都市計画決定の内容

- 名称：元茨木川緑地
- 計画決定期日：昭和 45 年 3 月
- 計画決定面積：約 20ha
- 開設年度：昭和 50 年度

整備期間

昭和 49 年度～昭和 63 年度（15 年間）

施工実績

延長約 5km、面積 13.12ha

改良整備

昭和 59 年度～平成 5 年度（10 年間）

施工実績

面積約 4.40ha

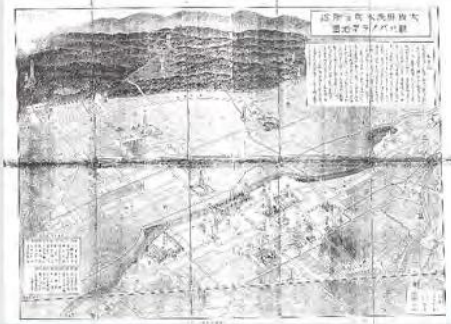
主な施設

- 児童遊戯コーナー 7 カ所
- 花壇 4 カ所
- 休憩施設（あずまや等）12 カ所
- 水の流れ 1 カ所
- 木製太鼓橋 1 カ所
- 白砂青松 1 カ所
- 市民さくらまつり会場 2 箇所 等

主な樹木

- サクラ 約 1,500 本
- その他樹木 約 70,000 本

●元茨木川緑地の歴史



昭和以前

現在は茨木市西河原で安威川に合流するが、昭和以前は安威川に合流せず西河原の手前の三咲町・田中町付近で南に折れ、今の茨木川緑地の敷地を流れて茨木町の市街や茨木神社に接して流れ、摂津市の学園町、鶴野付近（今の摂津高校周辺）で安威川に合流していた。川幅が狭く天井川であり、たびたび氾濫を起こす危険な川だった。

昭和 10 年

昭和 10 年（1935 年）6 月 29 日に大雨のため茨木川の堤防が決壊し大きな水害が起こり、これを機に川沿いの町村が改修・付け替えを求めて陳情を行った。

昭和 16 年

昭和 16 年（1941 年）、付け替え工事により茨木川は西河原で安威川に合流し、安威川も直線化・拡幅する工事がなされた。現在の西河原公園は、このとき取り残された安威川旧流路の堤や河川敷を公園にしたものである。

昭和 24 年

昭和 24 年（1949 年）に茨木川の付け替え地点から下流は廃川した。茨木川旧流路は当初ゴミ捨て場となったものの、道路と公園が作られ元茨木川緑地（桜通り）になっている。

“「茨木川」は子どもの遊び場”
（『わがまち茨木 水利編』より）

水遊びや魚とり、初夏のほたるとり、せみとり、くわがたとり、木登り、くぬぎのどんぐりでコマ遊び・・・川の堤には古木がたくさんあって、土手には野草も多く、子どものころの思い出となる自然の遊び場だった。

●緑地計画・整備の考え方

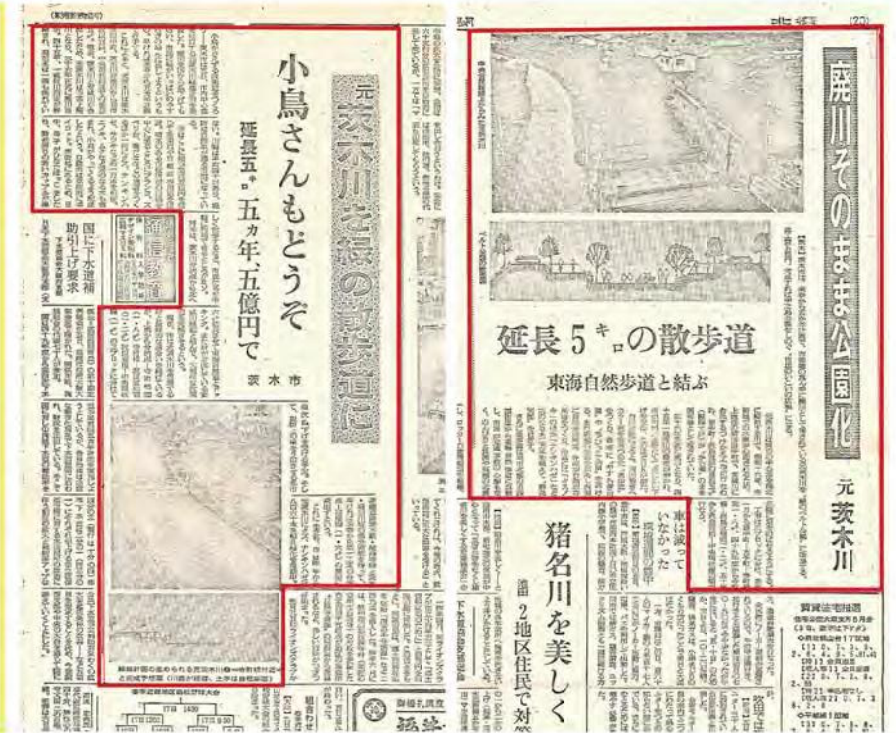
元茨木川緑地は茨木市の市街地中央を南北に貫く緑地であることから、大震災時における市街地中央部付近の特別避難路や防災緑地帯などの機能や、市街地におけるレクリエーションを主体とした公園緑地系ネットワークの骨格を形成する施設として、さらには都市景観や生物生息空間の提供などの環境機能の向上等を目指し、市街地に緑を導入する拠点と整備されたものである。

『茨木市緑道計画』

- 茨木市全体として、ハイキングなど週末などに利用する緑道、日常生活に利用される緑道、などの考え方が示されている。
- “元茨木川”に於いては元来“川”であったことをよく考慮し、そのような雰囲気や大事にした緑道にすべきであるとされている。
- 元茨木川は、川堤と川底をほぼそのまま利用することができることより、自動車、自転車、歩行者を立体的に分離する「通路型」、広く利用スペースを確保する「広場方型」といった断面構成の検討され、ケーススタディーが行われている。

『元茨木川緑地基本計画報告書』

- 「都市緑地」として茨木市中心市街地の環境の保全を計るとともに、「緑道」として市民の安全な「みち」の確保及びレクリエーションの場の提供を計るという考え方が示されている。
- 「環境保全」「防災」「レクリエーション」の3つの視点から方針が示されている。
- ブロック毎に季節のテーマを持たせて、基調木、点景木を設定されている。
※この植栽計画は、現状とは一致していない。
※この計画段階では全体的にサクラをテーマにした植栽にする考え方は示されていない。



●元茨木川緑地の見方① 北ブロックと南ブロック

元茨木川緑地は北から順に整備されていったという経緯を持ち、整備年度の差は最大で13年あるため、植栽の生育なども場所によって大きく異なる。現状では阪急電鉄の高架の北側と南側で緑地の雰囲気に変化することから、北ブロック、南ブロックに分けて現状を整理する。

<h3>北ブロック</h3>	<p>整備年度は昭和49年から55年。樹木の生育がよく、大きく育った樹木の下空間は見通しがよく、落ち着いた空間となっている。周辺には市役所や公園、高校、病院、川端康成記念館などの公共施設が集積しており、その他は住宅地となっている。</p>
<h3>南ブロック</h3>	<p>整備年度は昭和56年から63年。北ブロックに比べ樹木（高木）の生育は大きくない。また、品種もののサクラ等を主とした四季感の演出が明瞭になっている。周辺環境は都）千里寝屋川線横江交差点付近以北は住宅地が主であり、以南はプラントや倉庫、事業書が多い。</p>

●元茨木川緑地の見方② 緑地の特徴 4タイプ

元茨木川緑地は全長5.1kmであるが、緑地の幅、植栽構成、施設配置も区間によって様々である。区間ごとの特徴は大きく分けると4つのタイプがある。

A：サクラが主体となっており、華やかな緑道タイプ



【該当する場所】

- 北ブロック 茨木川～田中橋交差点間
- 南ブロック 阪急電鉄高架～沢良宜橋交差点間

B：樹冠の大きな木が多く、爽やかな緑道タイプ



【該当する場所】

- 北ブロック JR高架から中央公園北交差点間
- 寺町橋交差点～阪急電鉄高架間

C：緑地の幅が広く面的な施設の多い広場・庭園タイプ



【該当する場所】

- 北ブロック 中央公園北交差点～市消防本部前交差点間
- 南ブロック 沢良宜橋交差点～沢良宜公園間

D：緑地の幅が狭く周辺環境と一体となった通りタイプ



【該当する場所】

- 北ブロック 田中橋交差点～JR高架間
- 市消防本部前交差点～阪急電鉄高架間

整備
年度

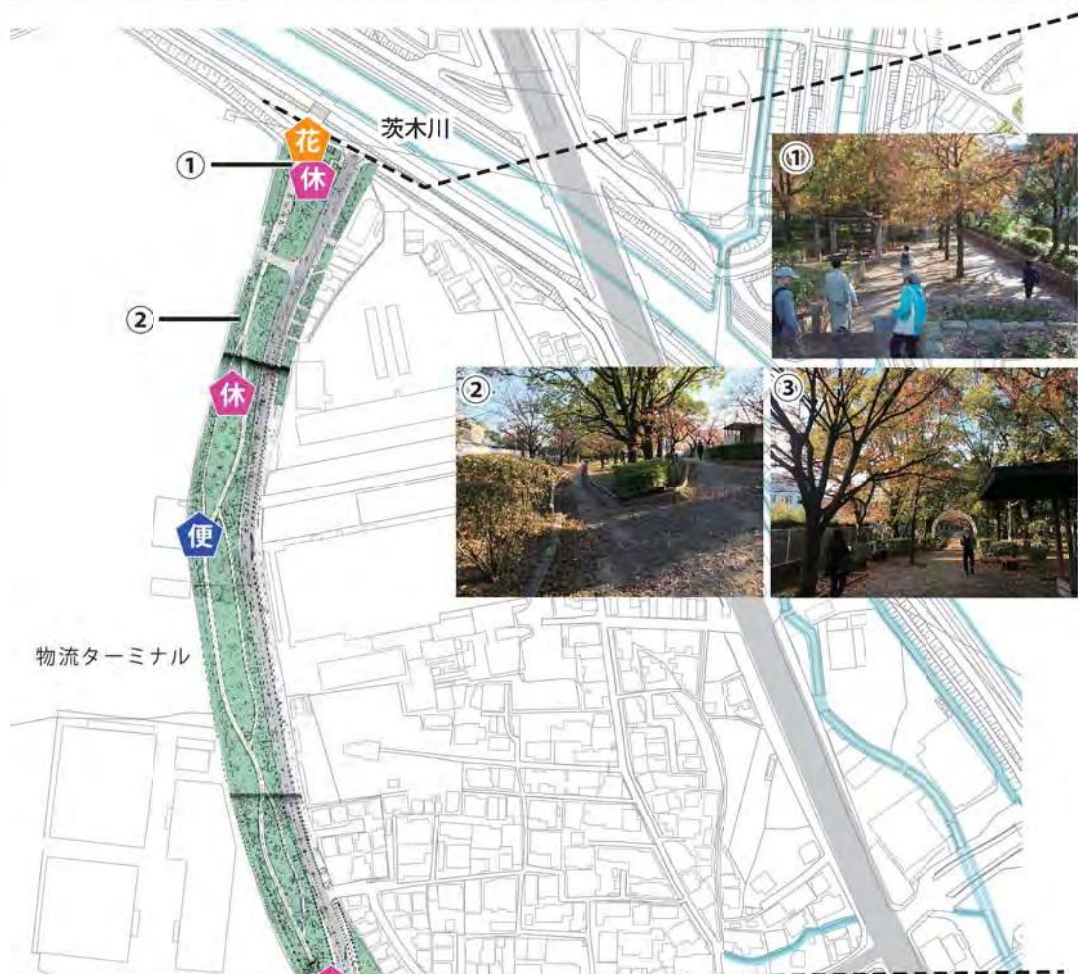
平面配置図

■ 緑地 ■ 公園 ■ 遊 プレイロット、遊具 ■ 花 花壇 ■ 休 休憩所 ■ 便 トイレ ■ 修 修景施設

タイプ

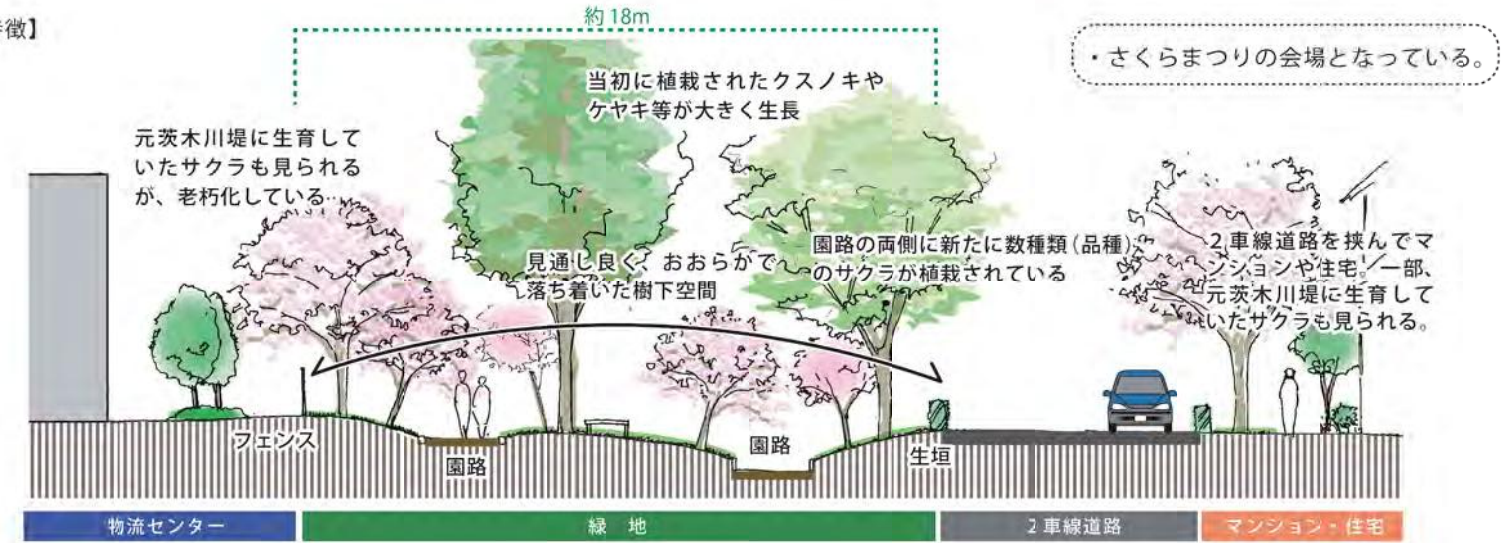
現状の特徴

S49



北-1 サクラに囲まれた落ち着いた雰囲気を楽しめるエリア

【緑地の特徴】



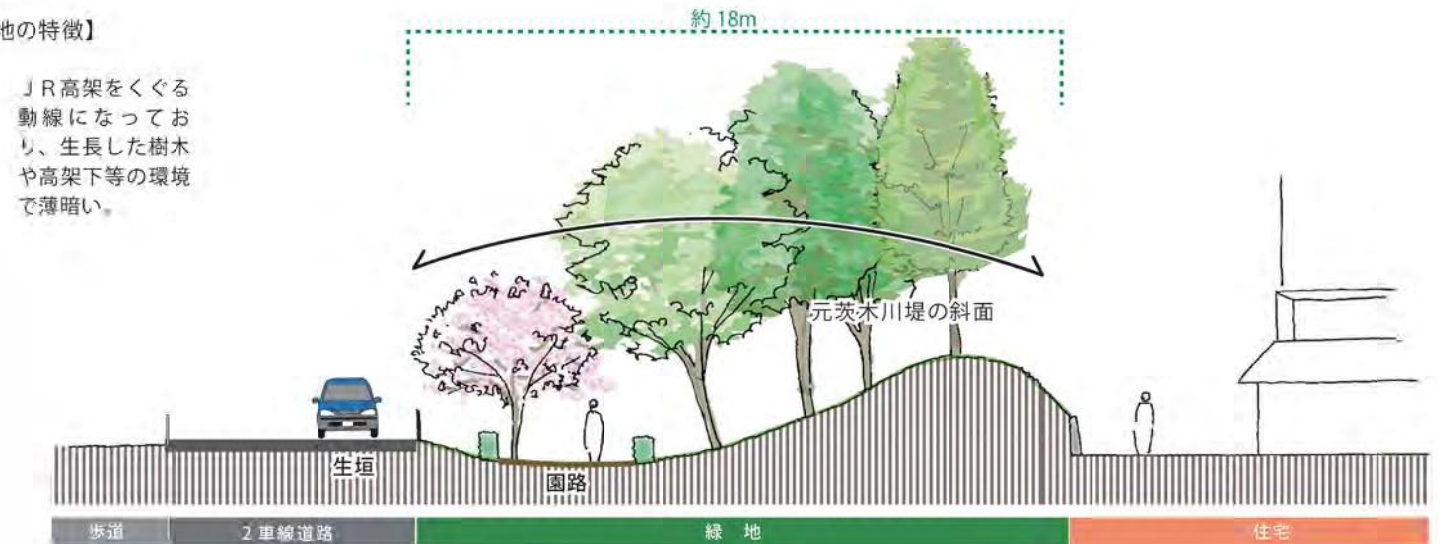
A

S50



北-2 元茨木川堤の面影を感じられるエリア

【緑地の特徴】



D

整備
年度

平面配置図

■ 緑地 ■ 公園 ■ 遊 プレイロット、遊具 ■ 花 花壇 ■ 休 休憩所 ■ 便 トイレ ■ 修 修景施設

タイプ

現状の特徴

S51

S52
~53

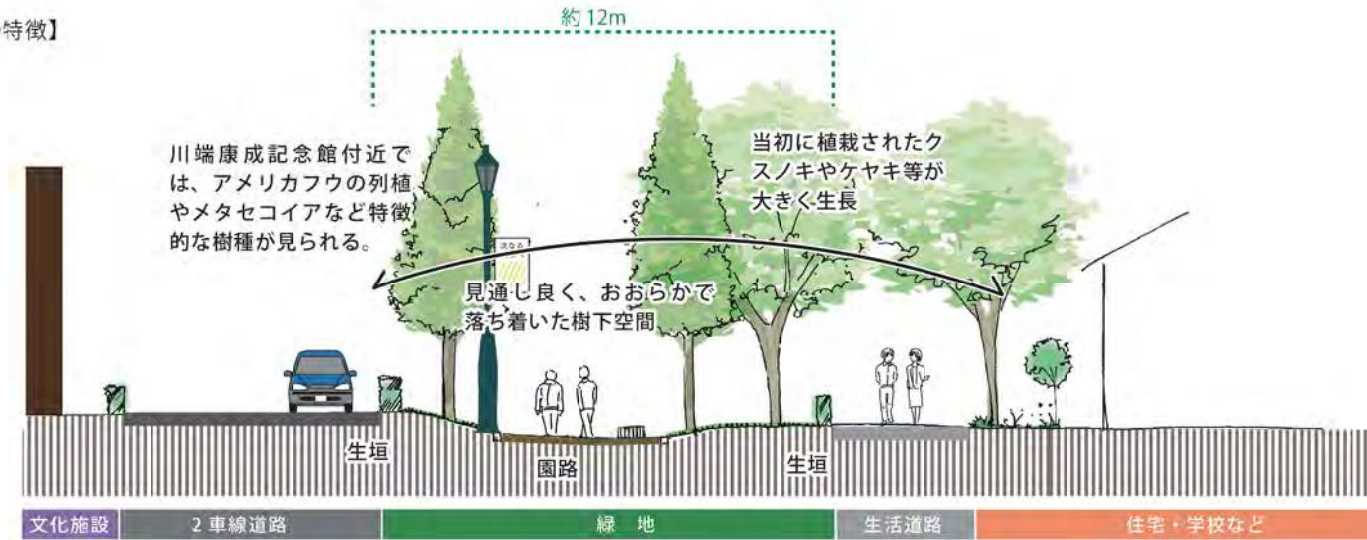
S54

S55



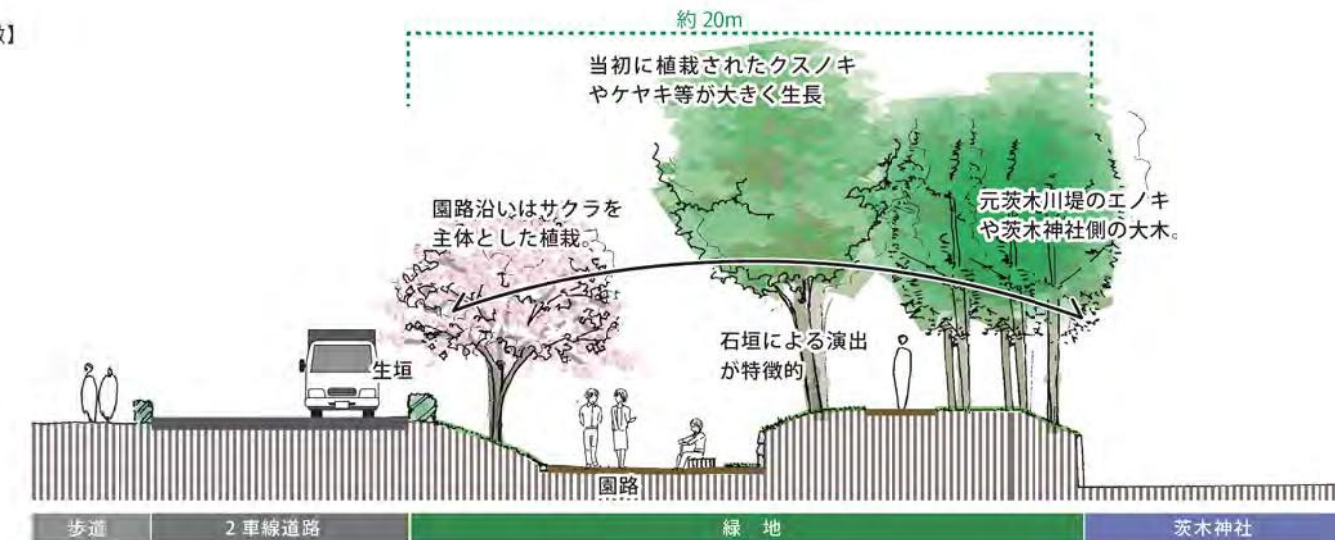
北-3 大きく成長した樹木に囲まれた爽やかな雰囲気のエリア

【緑地の特徴】



北-4 中央公園と茨木神社にはさまれたにぎわいを感じるエリア

【緑地の特徴】



整備
年度

平面配置図

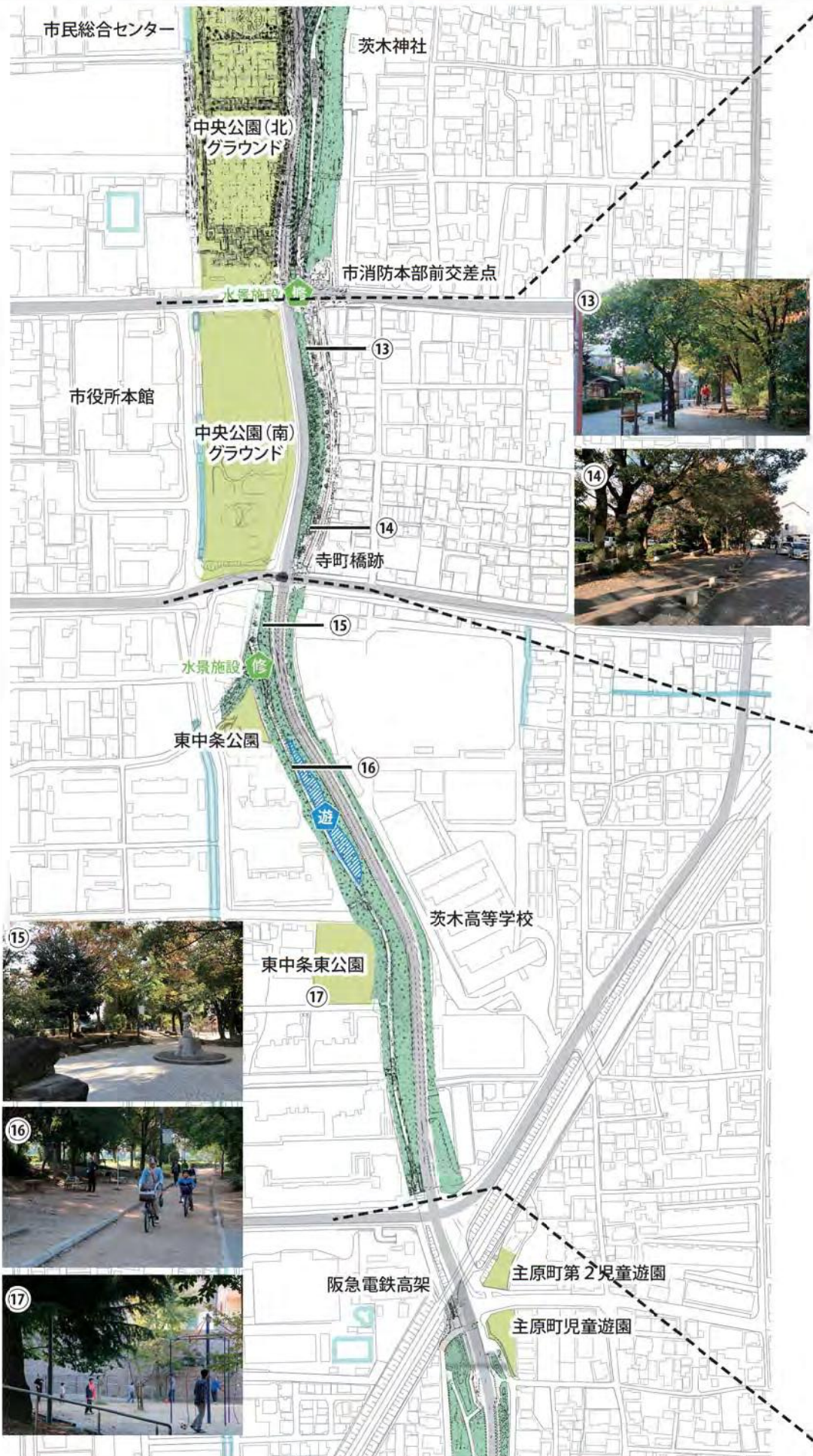
■ 緑地 ■ 公園 ■ 遊 プレイロット、遊具 ■ 花 花壇 ■ 休 休憩所 ■ 便 トイレ ■ 修 修景施設

タイプ

現状の特徴

S54

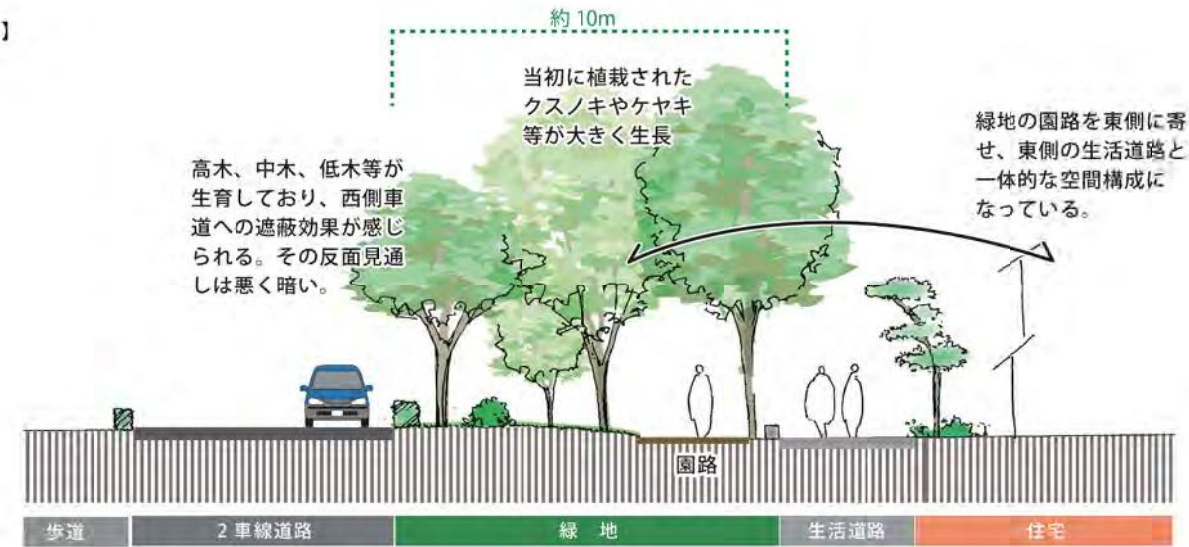
S55



D

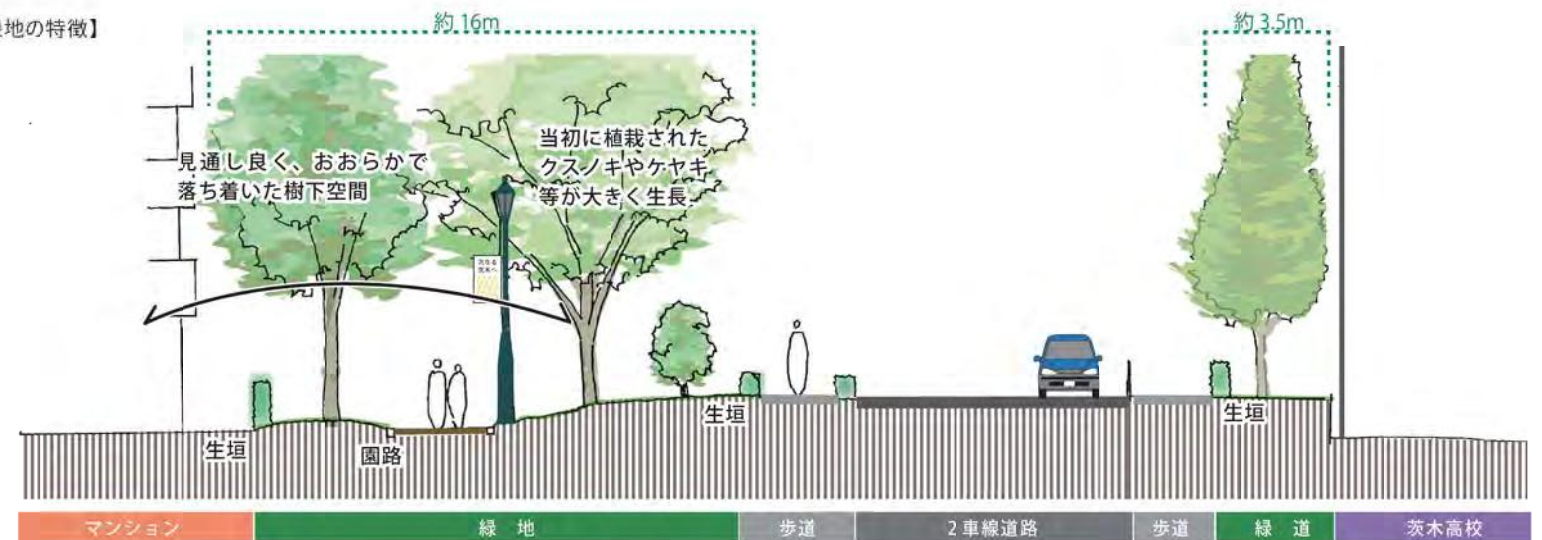
北-5 周辺住宅地に溶け込み風情ある景観をつくっているエリア

【緑地の特徴】



北-6 公園やマンション、高校と連続感のある明るいエリア

【緑地の特徴】



整備
年度

平面配置図

■ 緑地 ■ 公園 ■ 遊 プレイロフト、遊具 ■ 花 花壇 ■ 休 休憩所 ■ 便 トイレ ■ 修 修景施設

タイプ

現状の特徴

S58

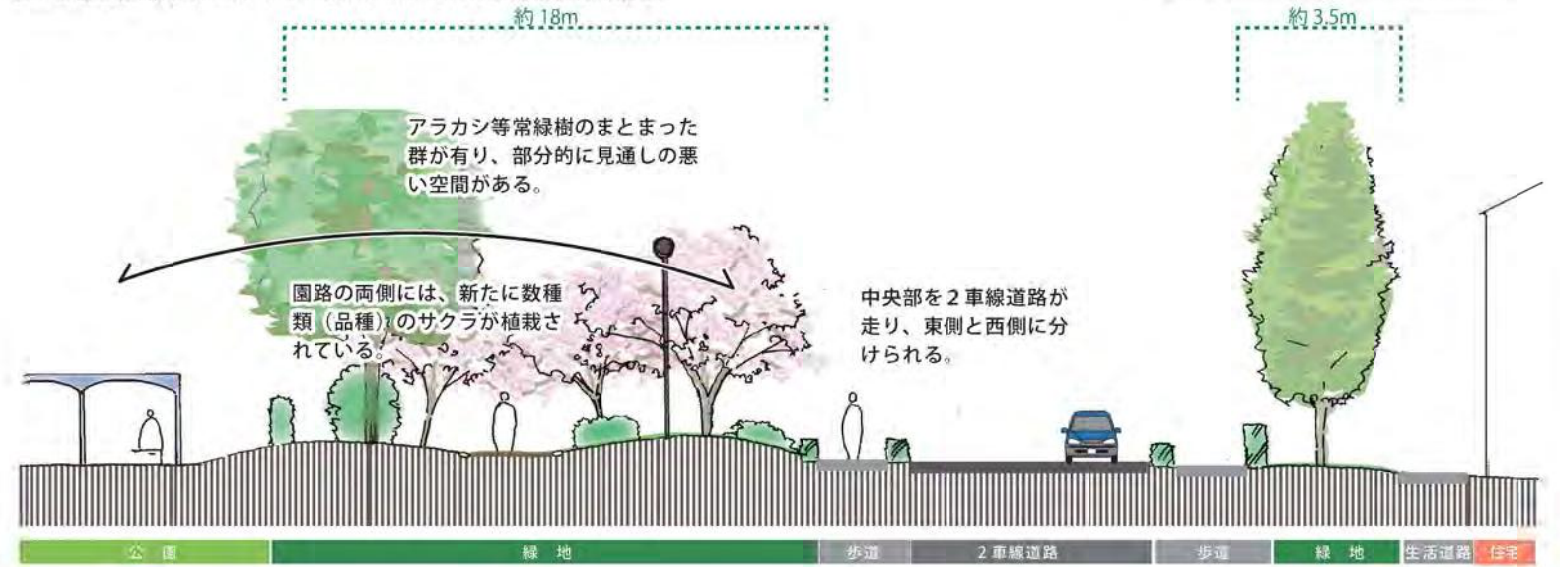


南-1 サクラの品種が多様で、周辺の住宅地や公園と調和したエリア

【緑地の特徴】

あやめ橋交差点付近には、アヤメ田のような設えがあるが現在は雑草。

・さくらまつりの会場となっている。



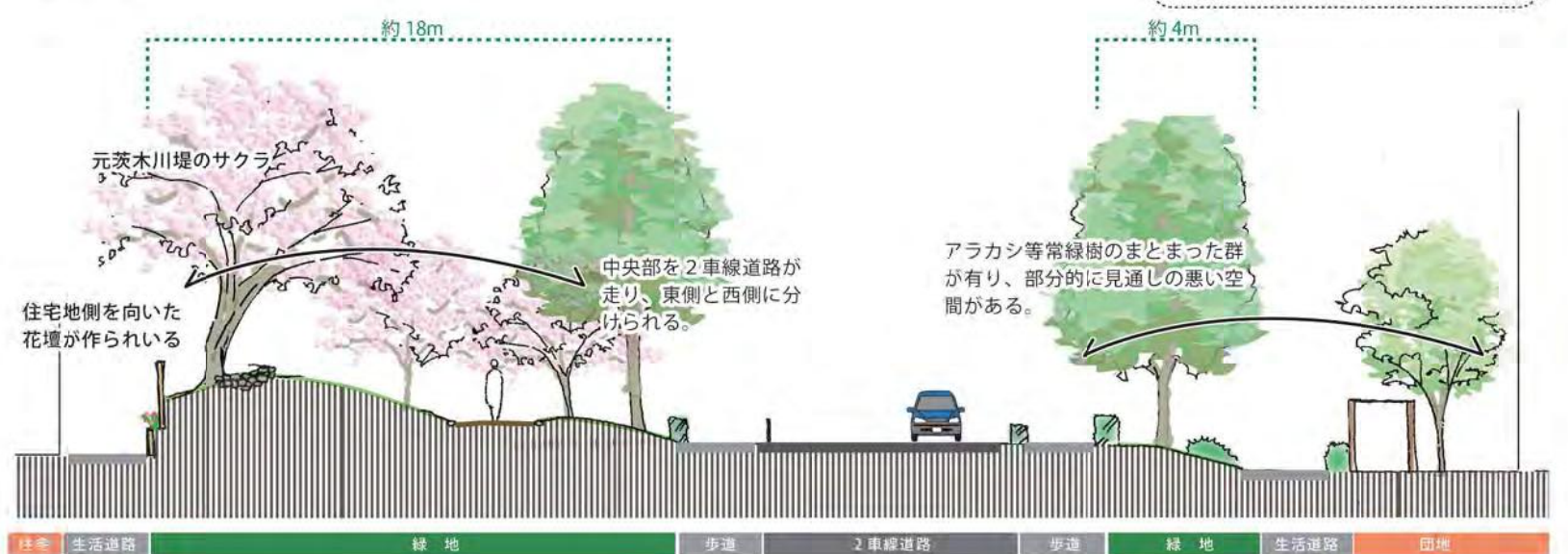
S59



南-2 サクラの品種が多様で、特徴ある修景施設や流れのあるエリア

【緑地の特徴】

・さくらまつりの会場となっている。



整備
年度

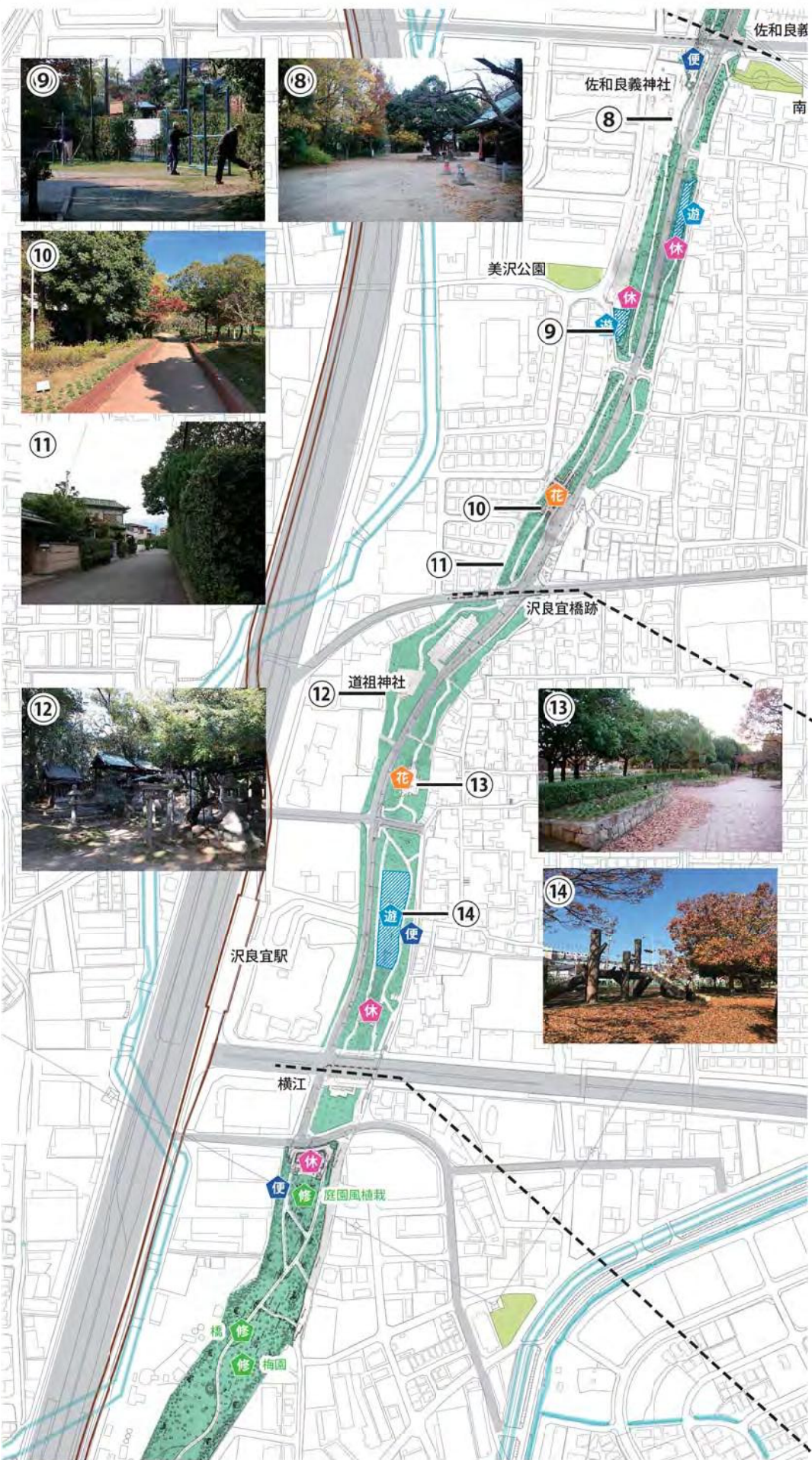
平面配置図

■ 緑地 ■ 公園 ■ 遊 プレイロット、遊具 ■ 花 花壇 ■ 休 休憩所 ■ 便 トイレ ■ 修 修景施設

タイプ

現状の特徴

S59



S60

S61

S62

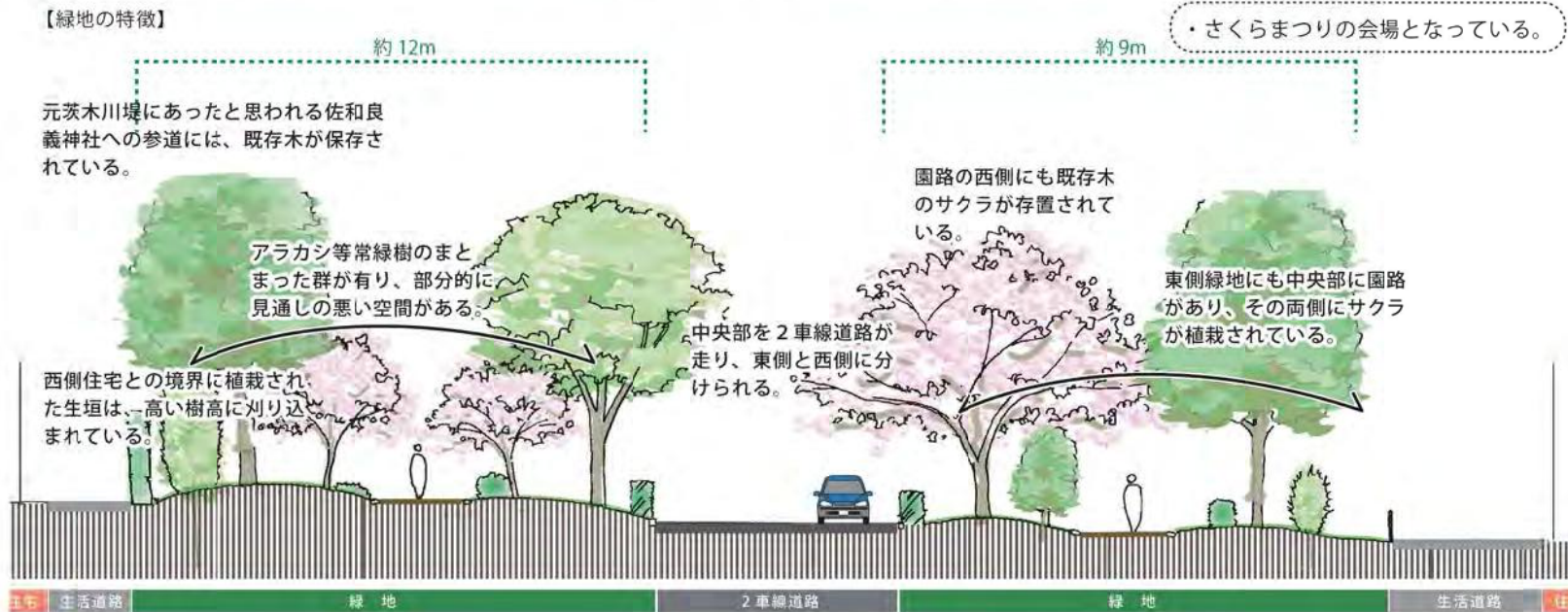
S63

A

南-3 サクラの品種が多様で、周辺から独立した緑に囲まれたエリア

【緑地の特徴】

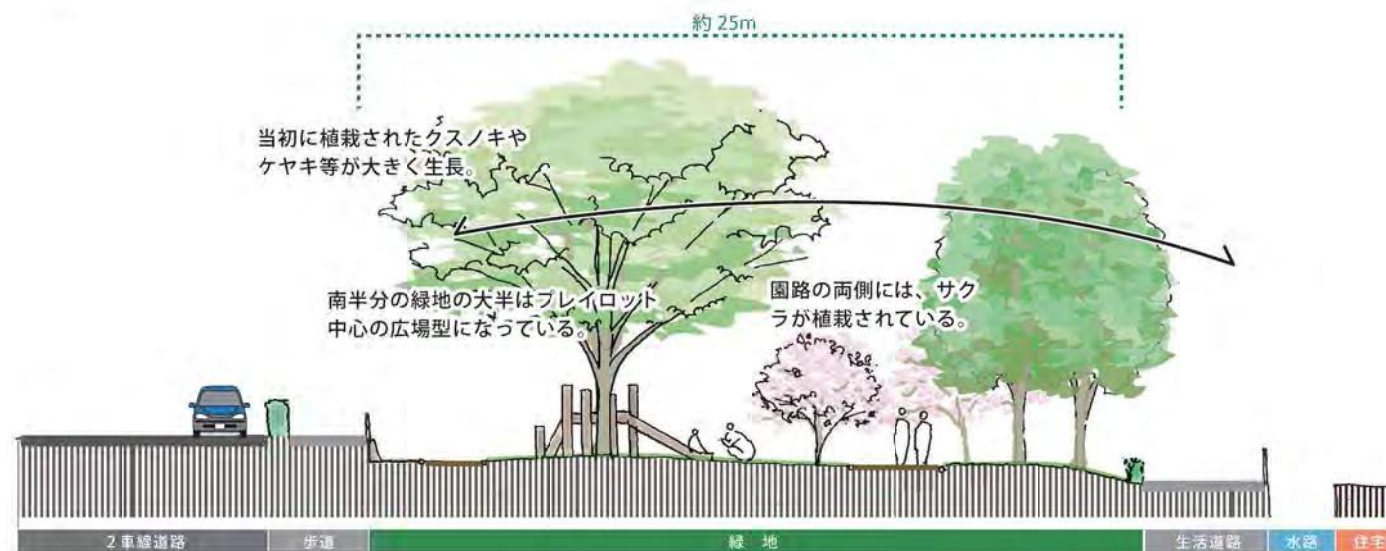
元茨木川堤にあったと思われる佐和良義神社への参道には、既存木が保存されている。



南-4 広場やプレイロットなど東側の住宅地との関係性が強いエリア

【緑地の特徴】

当初に植栽されたクスノキやケヤキ等が大きく生長。



C

整備
年度

平面配置図

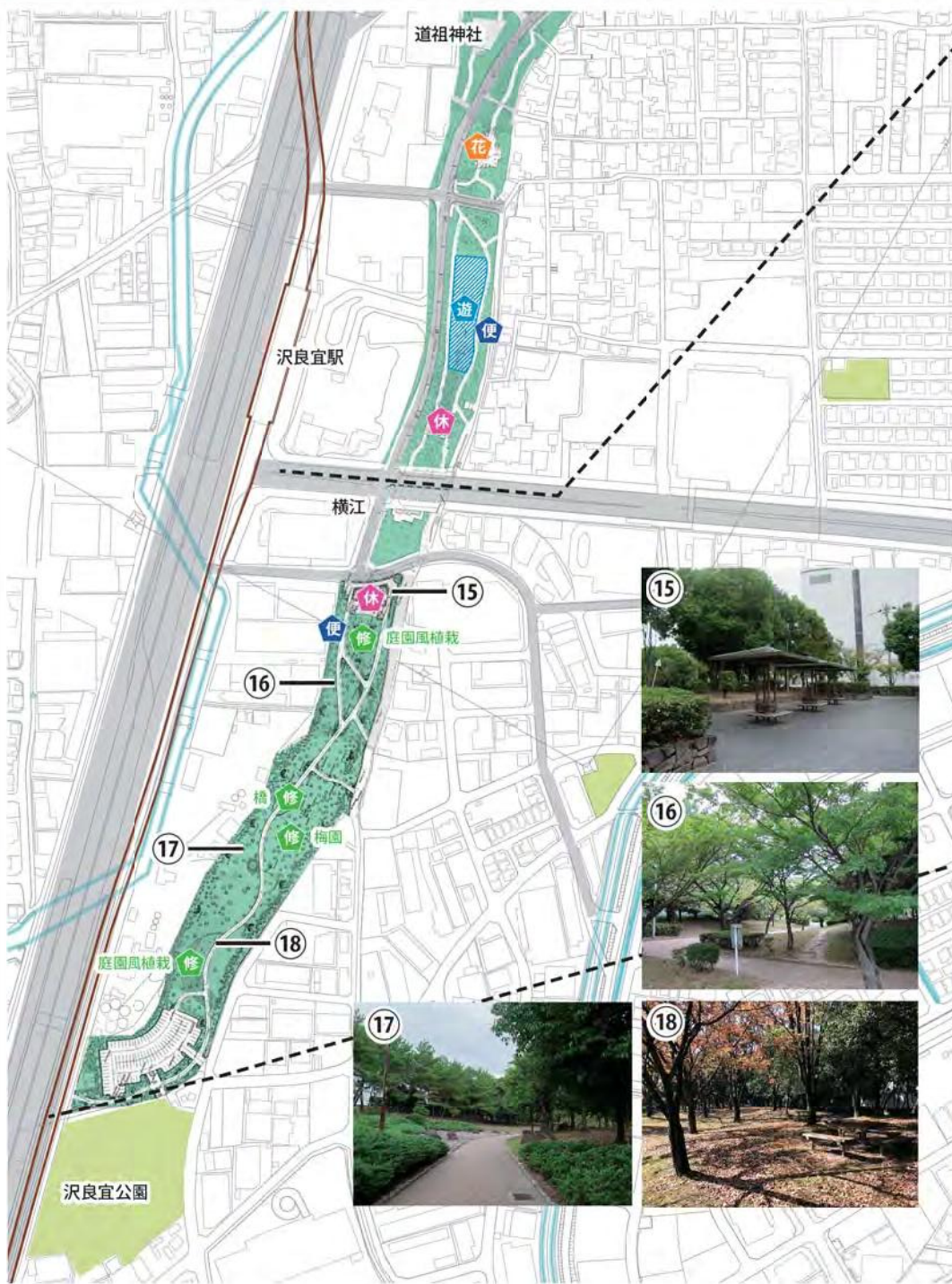
■ 緑地 ■ 公園 ■ 遊 プレイロット、遊具 ■ 花 花壇 ■ 休 休憩所 ■ 便 トイレ ■ 修 修景施設

タイプ

現状の特徴

S62

S63



南-5 サクラやモミジが多く、梅林・庭園など特徴ある空間が連なるエリア

【緑地の特徴】

- ・北側入口部には、モミジを主体に石組みなどが設えられた庭園的な空間がある。
- ・根締め植栽のハイビクションの生長が旺盛なため石組みが隠れている。
- ・南に進むと、梅林やケヤキの疎林、クロマツとハイビクションと石組みの庭園など特徴的な空間が設えられている。

